

臥龍桜を守り、育てる

岐阜大学名誉教授 林 進

台風被害からの「復活は不可能」といわれた

しかし、私は臥龍桜の復活を信じて、あらゆる手段を講じた。「千年の生命」への確信が、私の心底にあった。

桜も「生き物」である。人との共感がある。桜の生きようとする力を引出し、そこに手を添える。時間をかけて桜と語り合いながら、復活への道をたどってきた。

桜には「魂」があると私は、確信してきた。



昭和 30 年代の臥龍桜・中央左の首部分に注目



1994 年の19号台風により、大被害を受ける

林 進氏は権威ある樹木医学者で技術者でもあり、県内では、これまで臥龍桜、荘川桜、淡墨桜、揖斐二度桜、中将姫誓願桜等の保護を指導されている。

そして、臥龍桜の復活を念じ、再生を疑わなかった村人がいた。

どんな技術があっても、心がこもっていなければ木は答えてくれない。こもや縄を持ち寄って協力してくれた人たち。桜の姿に涙していた人たち。この桜に勇気づけられ、生き抜く力を与えられた人たち。すべての人たちが、臥龍を復活させた。

地域の財産は、自分たちで守り育てることが大切です。